

製品名: WNK1 (11F15) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe19909**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB, ICC/IF
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000, ICC/IF 1:50-1:100
分子量	251kDa

抗原情報

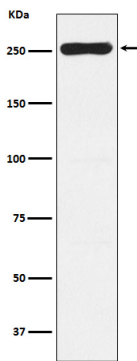
遺伝子名	WNK1
別名	KDP; PSK; p65; HSN2; HSN2; PRKWNK1;
遺伝子 ID	65125.0
SwissProt ID	Q9H4A3
免疫原	ヒト WNK1 の合成ペプチド

背景

電解質恒常性、細胞シグナル伝達、生存および増殖の調節において重要な役割を果たすセリン/スレオニンキナーゼ。ナトリウム共役型塩素イオン共輸送体とカリウム共輸送体のそれぞれ活性化因子と阻害剤として作用します。SCNN1A、SCNN1B、SCNN1D および SGK1 を活性化します。電解質恒常性、細胞シグナル伝達、生存および増殖の調節において重要な役割を果たすセリン/スレオニンキナーゼ。ナトリウム共役型塩素イオン共輸送体とカリウム共輸送体のそれぞれ活性化因子と阻害剤として作用します。SCNN1A、SCNN1B、SCNN1D および SGK1 を活性化します。キナーゼのリン酸化または WNK4 と WNK1 の自己阻害ドメインとの相互作用により、WNK4 の活性を阻害することで、ナトリウムおよび塩素イオンの輸送を制御します。WNK4 は、チアジド感受性 Na-Cl 共輸送体 SLC12A3 の活性をリン酸化によって制御する。WNK1 はアクチン細胞骨格の再構築にも関与している可能性がある。NEDD4L をリン酸化。SLC4A4、SLC26A6、CFTR の活性および表面発現を阻害する足場として機能し、阻害を媒介する STK39 をリクルートする（類似性による）。

研究分野

画像データ



Saos-2 細胞溶解物中の WNK1 発現のウェスタン プロット分析。